

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第31号 2013年 8月15日発行 発行責任者 森川 博己

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 一般社団法人日本福音ルーテル社団

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちはわたしか飢えていたときに食べさせ、冷えていたときに暖め、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ、はっきり言うておく、私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節～36節40節



インド・コルカタのスラムで会った子どもたち。貧しくても明るく元気。

インド、カンボジアへの支援に向けて

JELAの「世界の子ども支援委員会」の委員3名は、5月14～22日の日程で、JELAの支援先であるルーテル・ワールド・サービス・インド(LWSI)およびライフ・ウィズ・ディグニティ(LWDカンボジア)を訪れ、支援金の用途を確認すると同時に、今後の支援の必要な分野についても話し合いを行いました。(以下2ページに続く)

【この号にはこんな記事が】

インド・カンボジア視察報告 ……2～3 「インドワークキャンプ報告」市原悠史チャブレン ……4 山田麻衣さんブラジル・リポート ……5 エキュメニカル功労賞／リラ・プレカリア受講生募集 ……6 歴史コラム／難民レシピ本イベント ……7 カンボジア・ワークキャンプ募集案内／寄付者一覧ほか ……8



インド、カンボジアへの支援に向けて

現地を訪問したのは JELA の「世界の子ども支援委員会」委員長の今井哲男(JELA 理事)、ローウェル・グリテベック(JELA アドバイザー)、奈良部慎平(JELA 職員)の3名です。以下、現地の現状や課題等について報告します。(奈良部慎平)

インドにあるルーテル系 NGO

インドのコルカタ(カルカッタ)と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。多くの方は、マザー・テレサや彼女の創立した「神の愛の宣教者会」が頭に浮かぶかもしれません。1997年にマザーが亡くなってからは、あまりニュースで聞かなくなった場所というイメージをお持ちの方もいるかと思います。

JELA は昨年コルカタの支援を行っています。インドにはルーテル系 NGO のルーテル・ワールド・サービス・インド(Lutheran World Service India Trust=LWSI)があります。今回の視察で JELA から昨年提供した 5000 ドル(約 50 万円)の支援が、LWSI のスラム地域の学校運営費として有効に使われていることを確認しました。

LWSI の働き

LWSI は、主にバングラディッシュ難民の支援を行っています。1971 年のバングラディッシュ(東パキスタン)独立時にパキスタン(西)軍の侵攻を受けて 100 万人ともいわれる難民が発生し、隣接するインドに逃れたことを契機に 1973 年、LWSI は設立されました。コルカタにおけるスラムや路上生活者の多くはバングラディッシュ難民です。

私たちは、JELA の支援先のスラムの学校を訪れ、子ども達と交流しました。

意外だったのは、その子ども達が明るく元気で勉強への意欲も非常に高かったことです。しかしスラムには電気が無く、日が暮れると勉強することが困難です。悲しいかな、「勉強時間不足＝貧困」という連鎖が起きていました。日暮れ後に勉強ができない問題を解決するためには、電気(照明)が必要です。LWSI では、ソーラー・ライトの支給を行っているのですが必要個数とされる 2 万個(1 台 2000 円)が足りていない現状です。教育がないために、女兒は性産業、男児はゴミ拾いが生きていくための仕事となってしまう悲しい現実がありました。



「全てが無い」スラムの現実

電気、水道、ガス等のインフラに関してスラムには「全てが無い」といった状況です。特に飲料水は非常に問題があると思われますが、現状ではスラムで生活している人々に特段の健康被害がないことから、優先順位としては「教育」支援に力を入れることが急務と思われます。今は明るく元気な子ども達ですが、



女兒の将来は HIV、中絶、その他の性感染症の病気の問題もあり悲観的な見方をせざるを得ない状況です。

JELA の支援している LWSI は微力ながら尊い活動を続けているという印象を受けました。スラムに学校を作ったり、スラムの子ども達をスクールバスで送迎して LWSI 内にある学校で勉強する機会を与えています。



職業訓練の現実

スラムの子ども達が自立できるように LWSI では女兒に足踏みミシンの使い方を教えています。足踏みミシンは電気が無くても使え、また構造が複雑でないためにメンテナンスが楽なのだそうです。足踏みミシンの現地価格は 1 台約 4000 円ですが、60 人の児童に対してミシンは 3 台しかなく、20 人で 1 台を使用しているのが現状です。ミシンの数が十分でないために技術習得が思うように進まないという問題がありました。



日本政府との関係構築

今回の出張では LWSI の他に、同地においてパートナーシップを構築すべく在コルカタ日本国総領事館を訪問。領事及び草の根・人間の安全保障無償資金協力担当者と協議し、コルカタの子ども達の諸問題を解決するためには、長期的な取り組みが必要だという認識で一致しました。JELA としては引き続き日本政府との協力体制を構築していく方針です。

カンボジアの LWD とは

カンボジアで活動する NGO に「ライフ・ウィズ・ディグニティ (LIFE WITH DIGNITY 「命の尊厳」=LWD) があります。ルーテル関係者なら「L」が入っているのでルーテル系の団体かと思ったという方も多いのではないでしょうか。

実は LWD は 2011 年 1 月にルーテル世界連盟 (LWF) のカンボジアプロジェクトからローカライズ(ある国で作られた製品・サービスなどを別の国・地域で販売・提供する場合、その国の言語・法令・慣習に合うように製品・サービスを修正・改訂することの意味)した団体ですので、ルーテル関係という理解は正しいのです。LWD は、農村の貧困層の生活を改善するために活動しています。

豊かな国カンボジア

カンボジアは通年で気候にも恵まれ、何らかのフルーツが実るため人々が飢え死にすることがない、ある意味で豊かな国です。カンボジアのイメージは「アンコールワット」などの遺跡群、もしくは過去に虐殺・粛清が行われたポルポト政権の記憶ではないでしょうか。

後者の出来事は、今日のカンボジアにも深く影響を与えていると感じました。まずポルポト政権下で知識階層が殺されてしまったことから、指導的な立場の人材が極めて不足しています。また、知恵のある者(メガネを掛けていただけでも)が粛清の対象になったことから、農村では子ども達を学校に通わせる習慣が根付いていません。ポルポト時代でも農民は比較的優

遇(弾圧や粛清の対象外)されたことから、農民は当時のままの意識で向上心はなく、平穏に暮らしている印象を受けました。

近代化から取り残されないために

カンボジアは首都プノンペンを中心に急速に近代化しています。農民がポルポト時代のように無知でいいはずがありません。このままでは中国の都市部と農村部のように格差を生み、近い将来必ず農村は取り残されてしまいます。学校に通えない農村の子ども達のために LWD は活動しているのです。LWD では電気・水道の(当然ガスも)ない農村部に学校を建て、子ども達が読み書きなどを学べる環境を整備しています。

JELA の援助で来年、学校が建つ

LWD がサポートしているスライ・ジュングリ村に JELA の支援金で学用品などを買った学校があります。来年、村内の空き地に JELA の支援金によって学校(総工費 2500 ドル)が建つ予定です。子ども達だけでなく、村全体が学校の落成を楽しみにしている印象を受けました。

また、村に水不足という深刻な問題があることが分かりました。調査したところ、水源は村から 3 km 離れた山の沢で、村へ水を引くことが可能という結論が出ました。施工費約 90 万円の確保などが今後の課題です。



パートナーシップの確認

カンボジアにおいても、日本政府とのパートナーシップを確認するため在カンボジア王国日本大使館の書記官及び草の根・人間の安全保障無償資金協力担当者と協議しました。LWD について大使館もよく知っており、助成金等の申請も問題なく行えていることを確認しました。

まとめ

インドとカンボジアの視察を通じて、私たちはマザー・テレサの「貧しい人たちは、私たちが彼らに与えるよりはるかに多くを、私たちに与えてくれます。」という言葉思い出しました。

この度の視察で、両国で活動しているルーテル系の団体は、いずれも尊い働きをしていることが確認できました。両団体の継続支援のために皆様のご協力を引き続きいただければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。





インド・ワークキャンプ報告 IWC2013

チャプレン 市原悠史
甲府教会・諏訪教会牧師

2月12～22日に行われたIWC2013に、チャプレンとして参加させていただきました。ずっと準備してこられた小泉嗣牧師がご事情で行けなくなってしまったため、一ヶ月前に急遽抜擢されました。チャプレンとしての働きには沢山の反省がありますが、今回のキャンプに参加させていただいたことを、指名してくださった方々と神様に感謝しています。前号の参加者の感想に続き、チャプレンとしての報告をいたします。

今回のキャンプのテーマは「Pray for…」というものでした。このテーマの通り、参加者たちは、キャンプ中ずっと誰かのため／何かのために祈っていました。私も参加者と沢山祈りました。祈らずにはいられないものが、このキャンプにはありました。

●チャプレンの働き

このキャンプにおけるチャプレンの働きは、「参加者たちが感じた思いを言葉にしていく手伝いをする」「体験した出来事(出会い等)を、信仰的に理解していくのを助ける」「参加者のために祈る」ということだと思っていました。ですが、実際にキャンプが始まってみると、上記の3つに加え、もっと深い役割が与えられていたことを感じることができました。それは「キリストが

どこにおられるのかを探すこと」です。この役割は、簡単なことではありませんでしたが、最終的には喜びへと変えられました。参加者たちはもちろん、スタッフも、そして私自身も、キリストに用いられていることがはっきりと理解できたからです。

●参加者たちの姿

義足を作っている間も、着火剤を作っている間も、交流を持つことができた少女たちとシュシュ(髪留め)を作っている間も、そして日本食を作っている間も、参加者たちは心の深い部分で「相手に喜んで欲しい」ということをいつも思っていました。言葉もあまり通じないのに、参加者たちは指差会話帳やジェスチャー、英語などを用いて、積極的に出会う人々とコミュニケーションを図っていました。Comprehensive Rural Health Project (=CRHP) で出会った人はインド人だけではなくたのですが、一生懸命、思いを寄せ、心を通わせようとしていました。

また今回は、参加者が全員女性だったということが一つの特徴だと思いますが、ですから尚更、インドの女性たちの姿を見、話を聞くことが特別な体験になったと思います。JELA 職員の中島愛さん以外は、私を含めて全員がインドを訪れるのは初めてでした。ですから、インドという社会で生きる人たちの姿を初めて見て、その人たちの生の声を初めて聞いたのです。ただ「異文化」とだけで片付けられない衝撃が数多くありました。インドで(少なくとも私たちが今回行った場所と出会った人々に関して)女性が生きていくことの大変さ(言葉が的確でないかもしれませんが)、どれほどのものであるかを感じました。

●祈りと働き

出国してから帰国するまで、毎晩デボーションの時を持ちました。その日にあった出来事、各個人が感じたことを分かち合い、話し合い、その日のテーマに基づいて、深く考えていきました。その中で、自分たちが出会った人々、自分たちが祈る相手(「Pray for…」の「…」の部分)のことを思いました。全員疲れているにもかかわらず、分かち合いと祈りの時間は3時間を

超えました。誰も早く終わろうとは思いませんでした。全員がこの時間の大切さを感じていたからです。

キャンプが進むにつれ、参加者たちの作業に対する集中力は高まっていきました。それは作業に慣れたからというだけではなく、自分たちが誰のために働いているかをより強く感じるようになっていったからだと思います。キリストは参加者たちの心の祈りを聞いてくださっていました。そして、そのような思いを包み込んで、参加者たちをしっかりと用いてくださいました。参加者たちは、具体的な出会いと働きを通して、このキャンプの目的にある「ひとりひとりに新しい人生を始める神様の働きに参与する」ということを深く感じる事ができたのではないかと思います。

●主題聖句「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」(ローマ 12:12)と、テーマ曲「もちいてください」

あらためて振り返ってみると、主題聖句について考える機会は多くはありませんでしたが、この聖句を身をもって体験した10日間になったように思います。また、テーマ曲となった「もちいてください」は、イザヤ書6章がモデルになっていると思いますが、私たちはまさに召命の出来事を体験しました。この世界の痛みと叫びを知っておられる神様は、私たちをキリストの身体として用いてくださる方であるということ、きっと感じたことでしょう。このことをいつも覚えているというのは簡単なことではありませんが、今回の参加者たちが、再びインドでの体験を思い出して、神様に対する畏れと感謝をより深め、奉仕の心を強くするときが必ずくると信じています。



神様に導かれブラジルへ 宣教・福祉奉仕者として充実の日々

ブラジル・ボランティア 山田麻衣(ルーテル室園教会)



山田麻衣さんをご存知ですか。山田さんは室園教会員のアクティブな女性です。ボランティア活動にも積極的で、JELA のカンボジアとインドのワークキャンプにも参加しました。そんな彼女が、4月に JELC のブラジル宣教を助けるべく宣教・福祉奉仕者として旅立ちました。山田さんにブラジルでの活動を寄稿していただきました。(星崎ポール)



Bom dia! みなさんこんにちは!

ブラジル・サンパウロから山田麻衣です。

ブラジルに来て約2か月が経ちました。毎日学びと発見の日々で充実した時間を過ごしています。振り返ると約1年前の5月、徳弘先生(JELC 派遣ブラジル宣教師)のブラジル宣教報告を聞き、行ってみたいと思い、実現するのか全くわからないまま動き出しました。それから、周りの方々の後押しと、何より神様が働いてくださって、ブラジルでの奉仕計画を実現することができ、私はブラジルまで「導かれたのだ」と感じています。

ブラジルに発つ前、室園教会の主日礼拝で派遣の祈りをしていただきました。また、成田から発つ前日にも、今回のブラジル派遣に対して多方面から支えていただいている JELA のホールで派遣礼拝をしていただきました。たくさんの祈りに支えられてブラジルに来ることができたことを本当に感謝しています。

今は、週に2回ポルトガル語の語学学校に通いながら、教会の行事の手伝

いや、関係幼稚園でのボランティア、日系人の若者の集まりへの参加や、若者向けのイベントの企画等の活動を行っています。また、サンパウロから飛行機で1時間半程度のリオ・グランデ・ド・スル州で行われる家庭集会にも同行しました。日本から一番遠い国ブラジルで多くの日本人と出会い、日本食でもてなしていただいたことは、世界の身近さを感じさせる出来事でもありました。移住当時の貴重なお話を聞くこともでき、学校では習わなかったブラジル移民の歴史を学ぶこともできました。遠いブラジルの地での苦労もまるで感じさせないかのような話しぶりに、確かにそばにいてくださる神様の姿を見たような気がしました。

ブラジルのルーテル教会の総会にも参加しました。教会での青少年交流支援や関連福祉施設での奉仕者として日本から来た私をとて歓迎してくださいました。ブラジルのルーテル教会のホームページにも取り上げていただきました。

た。

ポルトガル語も大分慣れてきたと思います。新しい言葉を学ぶことは、新しい価値観が自分の中に生まれてくるような気がします。自分の当たり前が全く通用しないからです。数字を覚えないと買い物もできません。言葉を話すことができないと赤ちゃんに戻ったような気さえます。

正直、私に何ができるのか未だにわかりません。神様に尋ねてもまだ答えはありません。私ができることは、ブラジルに住む多くの人と交わり、私を通じて神様の愛を感じてもらえるように努めるのみ、と思っています。1日1日を大切に過ごしていきます。

改めて、日本からの多くの祈りとお支え、心より感謝いたします。

ブログ: **Meu nome é Mai!!**

<http://maiinbrazil.blogspot.jp/>



エキュメニカル功労団体 JELA ～教会一致運動に貢献

JELA をお支えいただいている皆様へ嬉しいニュースがあります。4 月 29 日に JELA は「エキュメニカル功労」団体として、日本エキュメニカル協会（松山與志雄 理事長）から顕彰されました。

エキュメニカルとは、教会一致運動のことです。宗教改革以降、キリスト教会には多くの教派が生まれましたが、それらキリスト教諸教派とカトリック教会とが一致を目指そうという運動で、「世界教会一致運動」とも呼ばれています。

顕彰の祝辞として同協会の松山理事長は、「日本福音ルーテル社は、キリストの愛をもって世界の助けを必要とする人々に仕え、エキュメニカル運動に

多大の貢献をされた」と JELA の活動を高く評価してくださいました。

ご存知の通り現在の JELA の活動は宣教師支援事業だけでなく、カトリック教会や難民・移住労働者問題キリスト教連絡会（難民連）等と共に難民の問題に取り組む難民支援事業、奨学金（給付型）による就学支援、ワークキャンプによるボランティア奉仕等のための各国への人材派遣など、多岐にわたります。

2006 年にスタートした「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）」は、エキュメニカルな活動として広がっており、カトリック教会、日本基督教団、日本聖公会、日本バプテスト連盟、救世軍などと教団・教派を超えた連携関係を培っています。

顕彰式では、JELA の長尾博吉 常務理事が活動報告を行い、キャロル・サック（リラ・プレカリア担当宣教師）がハー

プと歌による祈りを捧げました。この顕彰式にはキリスト教の諸教派から、約 40 人が集まり JELA の受賞を祝福してくださいました。

なお、これまでのエキュメニカル功労顕彰団体には、教会音楽祭、いのちの電話連盟、朝祷会全国連合、アジア学院、黙想と祈りの集い準備会（テゼ）などがあります。



リラ・プレカリア生徒募集 「ハープと歌で祈る」ボランティア養成

あなたもハープと歌で神様の愛を運びませんか？ JELA では、「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）」第 5 期研修講座の受講生を募集しています。リラ・プレカリアは、病床にある方や、さまざまな問題で悩み苦しむ方に、ハープと歌による祈りをお届けするボランティア養成プログラムです。

受講に際して、宗教、国籍、年齢などの制約はありませんが、講座全体がキリスト教を基礎としていることをご理解ください。プログラムは、聖書（主に詩編）心理学、祈り、音楽の要素から成り立っています。過去の受講生にもルーテル教会外の方、ノン・クリスチャンの方がたくさんいらっしゃいます。リラ・プレカリアの目的は、すべての人は神様に等しく愛されおり、一人ひとりの尊厳を認め、一人ひとりが神様にとってどれだけすばらしい存在であるかを伝えることです。

ハープと聞いて尻込みするかもしれませんが、初めから音楽の技量を備えた方を対象にした講座ではありません。リラ・プレカリアの実践に必要なハー

プと歌による祈りをお届けするボランティア養成プログラムです。

受講を希望される方は、2 年間の研修に専心する決意と、毎日 3 時間以上の自習（ハープ・歌・自分の心と向き合う）が求められます。

リラ・プレカリアの働きに関心がある方、ハープによるボランティア奉仕をしてみたい方は、まずは JELA 事務局まで資料をご請求いただければ幸いです。

**リラ・プレカリア（祈りのたて琴）研修講座
第 5 期 生徒募集**

期 間：2014 年 4 月～2016 年 3 月（2 年間）
内 容：ベッドサイドでハープと歌を用いて祈るボランティア養成講座
受講料：受講料 18 万円×5 学期（計 90 万円）＋入学金（10 万円）
定 員：10 名
問合せ／申し込み：一般社団法人 日本福音ルーテル社事務局
（〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-1-1 TEL: 03-3447-1521 FAX: 03-3447-1522）
中継日：2013 年 12 月 14 日（土）当日消印有効
応募説明会：10 月 19 日、11 月 16 日開催

■概要■

- ・研修期間：2014 年 4 月～2016 年 3 月（2 年間）
- ・内容：ベッドサイドでハープと歌を用いて祈るボランティア養成講座
- ・費用：受講料 18 万円×5 学期（計 90 万円）＋入学金（10 万円）
- ・募集定員：10 名
- ・問合せ / 申込：一般社団法人 日本福音ルーテル社事務局（電話：03-3447-1521）
- ・申込締切：2013 年 12 月 14 日（土）当日消印有効
- ・応募説明会：10 月 19 日（土）、11 月 16 日（土）開催

皆様のご応募をお待ちしております。
（中島 愛）

※JELA ホームページに実際の奉仕現場の様子を撮影した動画を掲載しました。映像を通じて少しでも皆様がリラ・プレカリアの働きについてイメージがわき、理解の助けになれば幸いです。
<http://www.jela.or.jp/events/2014lyrabosyu.html>

JELA 歴史コラム (最終回)
「瓢箪から駒が出るやも」



常務理事 長尾博吉

一般社団法人・日本福音ルーテル社は、1906 年熊本市において米国教会 (UELCS) の意図とは異なり、福音宣教活動を主務とする宗教法人ではなく、日本国民法に基づき不特定多数の日本国民に奉仕する公益法人として創設され、その事務所は熊本市内の一宣教師館内に置かれました。その後社団法人事務所は、日本ルーテル神学校の東京進出にともなう、東京都中野区鷺宮の日本ルーテル神学校内に移されました。そして第二次大戦後の神学校大学化 (三鷹市移転) によって、神学校を離れ東京都新宿区百人町の宣教師館に移されました。しかし、1974 年日本福音ルーテル教会の内海議長によるアスマラ宣言に伴う自立計画に JELA も宣教師館事務所の売却寄付により協力し、JELC の市ヶ谷会館建設計画に参画し、社団 (宣教師会) 事務所も新市ヶ谷会館内に移されました。

しかし、社団法人の監督庁である文部省文化庁は、寄附を受ける宗教法人と寄附をする社団法人が同じビル内において門扉を並べ、宗教法人の事務局長

が自動的に社団法人の理事に就任することは好ましくないとして、宗教法人と社団法人の癒着を批判し、その改善を促しました。その折り他方では、日本福音ルーテル教会から、教会事務所の手狭を理由に社団法人事務所を市ヶ谷会館の外に退去されたいという達々の要望が出されたため、止むなくその要望を入れて、社団法人事務所は、それこそ子離れして (JELA は JELC の生みの親)、現在の恵比寿の地に収益事業を伴う自社ビルを建設して移転した次第です。

またこれら外的要因のみならず、2000 年以後の社団法人にはその内的要因による大きな変動がありました。第一は、社団法人の財的支援基盤であった ELCA における海外宣教方策の転換 (海外宣教地への主体的福音宣教から海外宣教地の National Church による自主宣教に対する支援態勢への移行による社団への支援金供与の停止) により、社団法人に対する ELCA の海外宣教直接支援態勢が廃止され、社団法人は社団法人としての本来の民法公益事業のみに資する事業体 (宣教事業の廃止) へと回帰させられたこと。

第二は、民法公益法人に関する法律改正 (新公益法人改革法の成立) により、全ての民法社団・財団法人は、一般社団・財団法人若しくは公益社団・財団法人のいずれかに、新法律によって改

組することが決したことです。これらによって、JELA のこの後の事業活動は慎重に進展させる必要性が生じました。現在は、文部科学省文化庁によって認められた継続事業を主たる事業とする一般社団法人として、今や事業継続を進めると共に、新規公益事業の開発発展に努力し、一般継続事業法人から新公益事業法人へと前進する公益法人を目指す構想を抱いています。

しかし、本社団法人は、主に導かれ主に支えられた福音宣教を主軸とする団体ですから、人の思いを超えた主の導きによって「瓢箪から駒」が出ることもあります。本社団法人は、当初は福音宣教を夢みて創設された事業体ですが、現実には民法公益事業体であり、宗教活動は内閣府によって厳に認められていません。しかし、その公益事業を通じて思わぬ社会貢献 (国際難民支援事業、リラ・プレカリア事業等) が認められ、その公益活動を通じて宗教法人の福音宣教活動を間接的に支援するという、場合によっては福音の直接宣教の域を超えた思わぬ「瓢箪から駒」が出る活動 (主の恵み) が期待されます。それこそがこの社団法人が神様によって創設された当初の目的であったかもしれません。私は、今、その様に考え、そうなることを期待し、その日を静かに信じて待っているところです。 完

難民の故郷の味を味わう

日本に住む難民の方が作ったレシピ本『海を渡った故郷の味 Flavours Without Borders』(認定 NPO 法人 難民支援協会 著) の出版記念ランチ会が 6 月 1 日にジェラ・ミッションセンターで開かれました。

レシピ本は、難民支援協会が「料理」という世界共通の言葉を通じてより多くの方に日本にいる難民について知ってもらいたいという思いから誕生しました。15 の国・地域から約 40 のレシピと料理にまつわるエピソードが、日・英語で紹介されています。



ランチ会 JELA で開催

本の制作に際して JELA の難民シェルター「JELA ハウス」で生活する難民の方がレシピの一部を提供したほか、何点かのレシピの写真撮影もジェラ・ミッションセンターで行われました。(既報「JELA ニュース 29 号 P 5」)

ランチ会では、難民の方が運営するレストランから、本にも収録されているパキスタン料理「まるやかチキンカレー」が届けられ、参加者は舌鼓を打ちながら難民問題について学びました。参加者からは、「料理を切り口に今まで知らなかった難民の方の状況を知ることができてよかった」などと感想が寄せられま

した。イベント企画・担当の松本真実さん(難民支援協会 広報部)は、「JELA の協力に感謝しています。現場での支援活動に加え、レシピ本をきっかけにより多くの方が日本にいる難民について知り、支援に加わっていただけるよう活動していきたいです」と話しています。

JELA は難民へのボランティア等に関する情報を提供しています。ご興味のある方は事務局 (電話 03-3447-1521 / ファクス 03-3447-1523) にお問い合わせください。メールでは件名に「難民支援 希望」と明記の上、お名前のみ本文にお書きいただき、jela@jela.or.jp 宛て送信下さい。

JELAへの寄付は銀行からもできます

いつも JELA をご支援くださり、ありがとうございます。チャリティコンサート会場でのご寄付、郵便振替票でお送りいただくご寄付等、皆様の温かいご支援に感謝しています。寄付金のご送金には以下の銀行口座もご利用いただけますので、よろしくお願い申し上げます。

横浜銀行恵比寿支店 普通 6002037

一般社団法人日本福音ルーテル社団

(カナ: イッパンシャダンハウジン
ニホンフクインルーテルシャダン)

銀行経由でご送金いただいたご寄付は、特別のご指示がない限り、JELA のプログラム全体のために使用させていただきます。

今後ともご支援・ご協力をくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

CRHP 干ばつ緊急支援募金にご協力くださった皆様へ

このたび、インドの支援地である Comprehensive Rural Health Project (=CRHP) の干ばつ緊急支援にご協力いただきました。ありがとうございます。6 月末日までに JELA に集まった募金は 30 件・総額 22 万 9122 円となりました。心より感謝いたします。

JELA は本年 2 月に CRHP でワーク・キャンプを実施しました。帰国後に現地から干ばつ支援の緊急要請があり、キャンプ参加者が私たちにできることがあるのではないかと立ち上がり、各自が所属する教会やイベントで募金を呼びかけてくれました。キャンプ参加者たちの声

に賛同して募金にご協力くださった皆さまにはこの場を借りて御礼申し上げます。

インド・ワークキャンプの参加者が中心となって募金を集めていること、そして皆さまから温かい支援金が集まっていることを CRHP に伝えたところ、創立者ラージ・アロレ先生の息子さんで施設を運営しているラビさんから感謝のメッセージが届きました。

「私たちのために皆さまが祈ってください、募金してくださっていることに言葉に尽くせぬ感謝をおぼえます。本当にありがとうございます。」

第 5 回カンボジア・ワークキャンプ開催予定!!

2014 年 2 月中旬より、第 5 回目となるカンボジア・ワークキャンプを開催予定です。約 10 日間のキャンプで、ボランティア参加者はカンボジア現地の支援団体と協力して、助けを必要としている子どもたちと家族のために奉仕をしていただき、またカンボジアの文化と歴史を学ぶ機会にもなります。

キャンプの内容とボランティア募集要項については 9 月頃に JELA ホームページなどで

公開予定ですので、ご興味のある方は是非ご応募ください。



(2013 年 2 月 1 日～5 月 31 日)

安藤淑子／尼嶋治／井上新／池田賢治／ウエスト東京エミナチャ／裕淑代／江澤妙子／岡部瑞子／小原春子／大塚眞佐子／大谷忠雄／大中真理／賀川記念館／加藤悦子／神谷智子／神崎いずみ 他／関西学院大学／京谷信代／倉知延章／小泉小枝／神戸ルーテル神学校／小宮武子・俊作／小菅可代／小島和夫／佐々木典子／桜井永之／斉藤ひろみ／杉浦りえ／聖イグナチオ・マリア・デ・ス神父／関口佳子／高尾堯／高田紀子／高橋悠美子／田中淑子／武井順太郎／高橋要子／滝崎賢二／田島千恵子／田島章彦／JELC 玉名教会／東京イグナチオ・マリア・デ・ス神父／徳永好子／徳善規子／徳善義昌／中島康二／JELC 名古屋めぐみ教会／長田ひろみ／新津雅史／西千恵／二宮咲子／日本聖公会東京教区八王子復活教会／野上きよみ／延原ミチ子／萩原耕介／JELC 八王子教会／早瀬康平／春の全国フィッシュ・キャンプスタッフ反省会参加者／東教区 50 周年大会参加者／平林洋子／古川千代子／古川文江／前山貴史子／宮本新／南節子／森保宏／山本了／山本一男／山県順子／山田芙美子／山崎理恵／リ・プレリア公開講座参加者／若原奇美子／Association of Foreign Wives of Japanese／Heather Green／Hosanna! Lutheran Church／Lowell Gretebeck／世界の子ども支援チャリティコンサート席上献金(日本福音ルーテル静岡教会／神戸教会)その他匿名複数 以上 順不同・敬称略

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集余話

賞に縁がない。赤ちゃんの時に健康佳良児、小学生の時に、写真展示会を主催した市から佳作に選ばれたぐらいだ。前者は、細身の今の私を知る人は信じてくれない。後者は、写生中に降りだした雨がキャンパスにかり、平凡な絵に味わいをもたらしたらしい。どちらも他力受賞である。今回のエキュメニカル功労賞も想定外だが、皆さんと共に喜べることを嬉しく思う。ところで、誰でももらえる賞(資格)をご存じだろうか。「しかし、言(ことば)は、自分(＝イエス・キリスト)を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた」(ヨハネ福音書 1 章 12 節)。これである。表彰状が聖書、副賞は神の愛・喜び・平安……と言えようか。気前のよい賞なのだが、日本では人口の 1% ももらっていない。私を含めた受賞者が副賞をいつも隠しているのが原因でなければよいのだが。(M)